

大学案内に記載された大学の特徴は学生の認識と一致するか 長野県看護大学在学生の入学前の期待と入学後の満足に関する調査より

前田樹海*1, 柿沼佑果*2

【要旨】 大学案内に記載されている「大学の特徴」が、その利用者である学生にとっても同様に大学の特徴として認識されているのかを明らかにするための調査を実施した。大学案内に記された特徴には、個人の能力開発や就職支援体制など、44項目のセールスポイントが認められた。一方、それらの項目に対して学生は、ある一定の期待や満足を抱いており、期待外れな項目はなかったことが判明した。しかしながら、学生は「立地」や「単科大学」などを本学特有の特徴ととらえる傾向があり、大学の提示している特徴と必ずしも一致していないことが判明した。大学の特徴が大学の独善とならないために、学生の認識との間にずれがないか適宜点検する必要性が示唆された。

【キーワード】 看護系大学, 特徴, 大学案内, 看護学生

はじめに

わが国では急速な人口の高齢化や医療の高度化により、保健医療分野における看護職者の需要は拡大している一方で、慢性的な看護職者不足が続いている。さらに看護職の新規養成の原資となる若年人口の減少が見込まれることから、資質の高い看護職者の養成確保が国家的課題と認識され、平成4年に「看護婦等の人材確保の促進に関する法律」が制定されるに至った。この法律と前後して当時の自治省より「大学、短期大学である看護婦等の養成施設設備に係る財政処置」が告示され、県債を発行して建設費用に充当できるようになった（看護行政研究会, 2003）ため、看護系大学の数は爆発的に増加し、平成4年には14校であったものが、現在では120校を数えるに至っている（看護関係統計資料集, 2004）。

このような背景の中で、看護系大学で教育を受けるということが他の看護系教育機関で教育を受けるのとどう違うのか、つまり、看護系大学で学ぶとはどういうことなのかについては関心が持たれている（佐々木

他,1998; 新田他,2002; 井部,2002; 酒井他,2003など）が、各看護系大学がどのような特徴を持っているのか、もしくは大学そのものの特徴については論じられていない。この理由として、各大学の特徴は大学案内に記載されているのであらためて問うまでもないという考え方があろう。しかしながら、大学案内の記述は、いわば大学の提示した特徴に過ぎず、多くの看護系大学が近年開設され、大学の特徴を定着させるための歴史に浅いものがほとんどであることを考慮すると、今後、大学の提示する特徴が実態を適切に反映しているかどうか検討することがますます必要になると思われる。

研究目的

1. 研究目的

本研究の目的は、大学案内に記載されている「大学の特徴」が、その利用者である学生にとっても同様に大学の特徴として認識されているのかを明らかにすることである。

*1 長野県看護大学 *2 虎の門病院看護部
2004年10月5日受付

2. 研究質問

- ①大学の提示している「大学の特徴」は何か.
- ②学生の考える「大学の特徴（強みと短所）」は何か.
- ③大学の提示する「大学の特徴」と、学生の考える「大学の特徴」との共通点および相違点は何か.

研究方法

1. 調査対象

調査対象大学は、筆者らが所属している長野県看護大学（以下本学）とした。所属する大学を調査対象とすることで、ある程度の回収率が見込めることが最大の理由であるが、本学は最初から大学として創立されており、前身となる教育機関等の影響を受けていない点、開学から8年以上経過しており大学の特徴が醸成、定着するのに必要と思われる時間が経過している点、その間に大学の特徴に影響するような大幅なカリキュラムの改正等がない点など、かかる因子の影響を受けていない点が本研究の分析に適していたと考える。また、調査対象学生は、大学の提示した特徴に対する期待度と満足度の両方に適切に回答できることが必要なため、調査時点で最終学年である本学学部4年生・編入2年次学生全員とした。

2. データ収集方法

1) 大学の提示する本学の特徴に関する調査

平成12年度受験者向けの大学案内「Pathway」より、本学の特徴として記載されているセールスポイントを全て抽出し、これを大学の提示する本学の特徴とした。

2) 学生の考える本学の特徴に関する調査

無記名自記式の質問紙を調査対象学生全員が受講する必修科目の授業開始前に配布し、記入後、受講教室内に置いた回収箱に投函してもらった。調査への参加不参加は自由に選択できること、および答えたくない項目については無回答でよいことを質問紙に明記するとともに、配布前に口頭での説明を実施した。なお、調査時期は平成15年7月である。

3. 調査内容

質問紙調査の内容は、大学案内より抜粋した全ての項目ごとに、入学前の期待度と調査時点での満足度を尋ねた。期待度は「考慮した」、「やや考慮した」、「考慮しなかった」、満足度は「満足」、「やや満足」、「満足していない」のそれぞれ3つの選択肢から択一式とした。また、大学案内から抽出したもの以外に本学の強みと思われること、および本学の短所と思われることを、その理由とともに自由記述で尋ねた。

4. 分析方法

単純集計、クロス集計、グラフ作成には、Microsoft Excel 2004 for Macを用いた。

研究結果

1. 回収結果

配布数80名に対し、回答数は66名（82.5%）であった。

2. 回答者の属性

年齢の最頻値は21歳（28名）、次いで22歳（27名）であった。性別は女性62名、男性4名であった。出身高校別にみると、長野県内の高校卒業者が30名、県外が36名であった。入学試験別には、一般入学試験（前期）34名、一般入学試験（後期）7名、推薦入学試験17名、編入学試験6名であった。

3. 大学の提示する本学のセールスポイント

大学案内Pathwayに本学の特徴として記載されている項目（以下セールスポイント）は、表1に示すとおり「新しい大学」「人々へ配慮が自然にできる豊かな人間性を養う」、「人々の健康福祉の向上に貢献できる人材となる」、「地域の人々から歓迎される」、「授業がわかり易い」などの44項目が抽出された。

4. 大学のセールスポイントに対する学生の入学前の期待度と調査時点での満足度

表1には、さらに、それぞれのセールスポイントについて、入学前の考慮および調査時点での満足について

表 1 入学前の期待度と調査時点での満足度(n = 66)

項 目	入学時の考慮(人)			現在の満足(人)			期待度	満足度	分類
	考慮した	やや考慮した	考慮しなかった	満足	やや満足	満足していない			
新しい大学	23	26	16	44	21	0	74.1	100.0	A
自主性を育む	11	29	26	20	42	4	58.3	75.0	A
人々へ配慮が自然にできる豊かな人間性を養う	20	22	24	24	38	4	62.5	91.7	A
幅広い視野を養う	35	17	14	33	31	2	82.8	93.1	A
社会で生活する人間の理解を深める	19	27	18	25	34	4	62.5	83.3	A
個人の資質向上を図る	15	30	19	21	41	3	66.7	86.7	A
看護実践に関する総合的な能力を養う	43	18	4	27	35	3	91.7	91.7	A
人々の健康福祉の向上に貢献できる人材となる	24	23	18	23	39	1	68.4	94.7	A
看護の社会的機能を十分担える人材となる	22	27	16	16	45	1	66.7	91.7	A
カリキュラムを貫くテーマは「人間の理解」	29	20	16	34	28	2	88.9	96.3	A
国際化への対応を強化する	19	19	28	12	45	7	50.0	50.0	A
体験学習の実践	21	19	26	27	32	7	53.6	75.0	A
自然が豊かである	32	16	18	51	9	6	70.5	86.4	A
優秀なスタッフ (出身大学・出身病院)	18	24	23	38	25	2	60.0	96.0	A
熱心な先生方が多い	13	27	25	30	33	2	52.6	89.5	A
最新の機器が備わった施設がある	35	18	11	37	26	1	93.3	96.7	A
好きなだけ自分のやりたい勉強ができる	16	27	22	22	37	6	58.8	70.6	A
授業以外にもサークルがあり楽しみがある	22	19	24	21	26	18	56.7	53.3	A
多様な職場での活躍が期待されている	31	22	12	32	28	4	79.3	86.2	A
卒業生は次代の看護を担うスペシャリストを目指す	24	24	16	21	39	3	80.0	90.0	A
各職種で求人が多くある	34	18	12	32	24	7	84.4	84.4	A
希望のところに就職できている	30	17	18	21	36	5	69.6	78.3	A
国家試験でよい結果を得ている	31	15	19	21	36	5	65.2	87.0	A
教職員と学生が良い大学作りに励んでいる	6	18	41	22	40	3	11.1	83.3	B
個々人の持つ可能性が開花することを目指す	12	14	40	19	39	8	26.1	65.2	B
自立性を育む	12	25	29	18	44	4	46.2	76.9	B
将来看護実践に関する指導者を育成する	10	19	36	9	41	12	31.3	50.0	B
公開講座を実施し「開かれた大学」を目指す	5	15	45	12	45	6	15.4	61.5	B
全員参加の論議方式の科目がある	5	10	51	20	36	10	11.1	63.0	B
選択科目が多くある	10	25	30	21	35	9	33.3	72.2	B
信州の中でも屈指のリゾート地	6	10	50	21	30	15	18.2	54.5	B
地域の人々から歓迎される	9	20	37	43	21	1	32.1	96.4	B
「日本で最も住みよいまち」にランクされた	4	14	47	26	31	8	11.5	73.1	B
先生が親しみ易い	9	20	36	36	28	1	28.0	96.0	B
授業がわかり易い	11	16	38	11	47	5	7.7	61.5	B
先輩が親しみ易い	8	22	35	32	28	5	25.0	79.2	B
大学院が併設されている	13	17	34	17	43	2	43.8	87.5	B
看護学を発展させることができる教育者を育成する	5	17	43	11	37	14	19.0	38.1	C
看護学を発展させることができる研究者を育成する	5	16	44	9	42	11	17.6	41.2	C
英語を4年間通じて開講	18	19	29	11	39	15	38.1	42.9	C
外国人専任教員による英語での看護学の講義	15	17	33	13	32	16	39.1	39.1	C
授業以外にも学生自治会があり楽しみがある	11	19	34	13	30	20	34.6	34.6	C
進路に関して、進路相談をきめ細かく行う	12	22	31	14	32	18	29.2	41.7	C
国家試験受験へ段階的な支援体制がある	12	19	34	11	38	14	16.7	44.4	C

A 23 B 14 C 7 D 0

て質問した結果を示した。入学前に「考慮した」項目として最も多かったのは「看護実践に関する総合的な能力を養う」43名, 次いで「幅広い視野を養う」「最新の機器が備わった施設がある」35名, 「各職種で求人が多くある」34名, 「自然が豊かである」32名であった。逆に「考慮しなかった」項目としては, 「全員参加の論議方式の科目がある」51名, 「信州の中でも屈指のリゾート地」50名, 「日本で最も住みよいまちにランクされた」47名, 「公開講座を実施し「開かれた大学」を目指す」45名であった。

一方, 「満足」した項目として最も多かったのは「自然が豊かである」51名, 次いで「新しい大学」44名, 「地域の人々から歓迎される」43名, 「多様な職場での活躍が期待されている」38名であった。逆に「満足していない」項目としては, 「授業以外にも学生自治会があり楽しみがある」20名, 「授業以外にもサークルがあり楽しみがある」「進路に関して, 進路相談をきめ細かく行う」18名, 「外国人専任教員による英語での看護学の講義」16名であった。

5. 大学のセールスポイントに対する学生の期待度と満足度との関係

入学前の期待と調査時点での満足について, それぞれ高い項目やそうでない項目は判明したが, それらの関係性については明らかではない。そこで期待と満足との関係を定量的に把握するために, 表2に示すとおり「やや考慮した」, 「やや満足」のあいまいな回答を排除して, 「考慮した」, 「考慮していない」, 「満足」, 「満足していない」という比較的明確に回答しているものだけを抽出し, 2×2表をそれぞれの項目について作成した。この2×2表の回答者数Nの中で「考慮した」と回答した者の割合, すなわち $(x1+y1)/N$ を期待度とし, 同様に $(x1+x2)/N$ を満足度として算出する

表2 期待度と満足度の算出方法

	考慮した	考慮していない
満足	X1	X2
満足していない	Y1	Y2

期待度 = $(X1+Y1)/N$

満足度 = $(X1+X2)/N$

ただし $N = X1+X2+Y1+Y2$

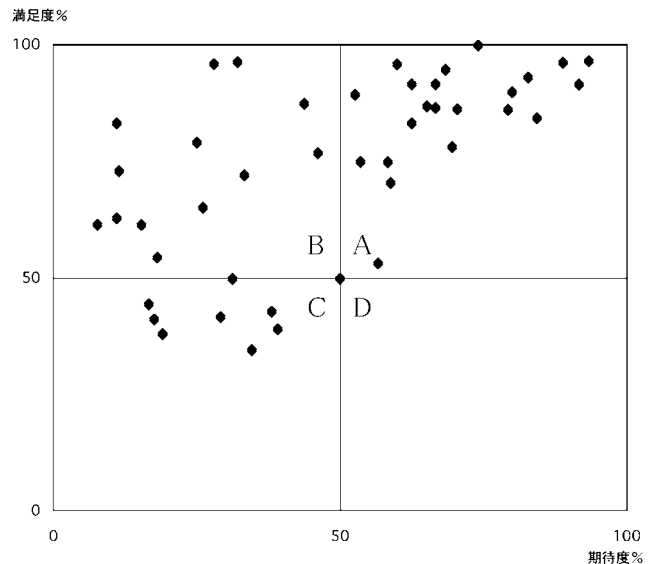


図1 入学前の期待度と調査時点での満足度との関係

ことで, 1項目ごとにそれぞれの1つの期待度と満足度が決まることになる。算出したこれらの期待度と満足度はそれぞれ表1の中に示したが, それらをYグラフ上にプロットしたものが図1に示す散布図である。

期待度と満足度のそれぞれを50%でA~Dの4つのエリアに区切った。期待度と満足度それぞれが50%をきると「期待していなかった」, 「不満」を表すことになるため, 50%が重要な区切りとなるからである。Aは「期待度50%以上かつ満足度50%以上」であり期待に応ずる満足を得ていると考えられるエリアである(以下「期待通り」)。Bは「期待度50%未満かつ満足度50%以上」であり, 期待していたよりは満足が高かったと考えられるエリアである(以下「期待以上」)。Cは「期待度50%未満かつ満足度50%未満」であり, 期待も満足もしていないと考えられるエリアである(以下「ノーマーク」)。Dは「期待度50%以上かつ満足度50%未満」であり, 期待よりは満足が得られなかったと考えられるエリアである(以下「期待はずれ」)。

「期待通り」エリアに分布する項目には, 「最新の機器が備わった施設がある」, 「カリキュラムを貫くテーマは「人間理解」, 「看護実践に関する総合的な能力を養う」, 「新しい大学」, 「人々への配慮が自然にできる豊かな人間性を養う」, 「各職種で求人が多くある」, 「優秀なスタッフ」など23項目が含まれた。

「期待以上」エリアに分布する項目には, 「地域の人々から歓迎される」, 「先生が親しみやすい」, 「先輩

が親しみやすい」, 「教職員と学生が良い大学作りに励んでいる」など14項目が含まれた。

「ノーマーク」エリアに分布する項目には, 「4年間を通じて英語を開講」, 「外国人専任教員による英語での看護学の講義」, 「看護学を発展させることができる教育者を育成する」, 「将来看護実践に関する指導者を育成する」, 「進路相談をきめ細かく行う」など7項目が含まれた。

なお, 「期待はずれ」エリアに分布する項目は皆無であった。

6. 学生の考える本学特有の強みについて

本学特有の強みと考える事項に関する自由記述による回答結果を図2に示す。回答者数は36名で回答数は67件であった。自由記述の内容は8つのカテゴリー, すなわち「単科大学」, 「カリキュラム」, 「実習」, 「教員」, 「立地」, 「施設」, 「交流」, 「その他」に分類された。

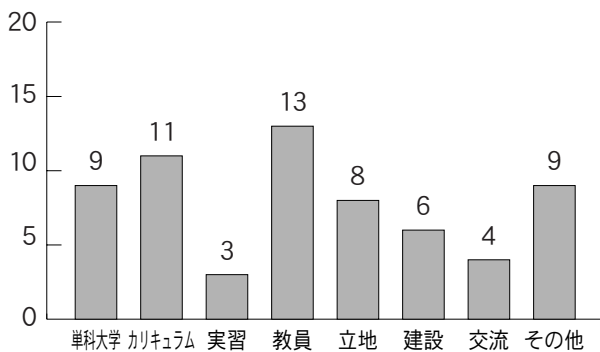


図2 本学の強み (n = 36, 複数回答あり)

本学の強みとして挙げられた項目の中で最も多かったものは「教員」13名, 次いで「カリキュラム」11名, 「単科大学」「その他」9名であった。「教員」に含まれる要素としては「看護師資格を持つ教員が多い」, 「優秀な経歴を持つ教員が多い」などがあり, その理由は「看護を看護の視点で学べる」, 「看護を専門的に学べる」などであった。「カリキュラム」には「人間理解についての学びが深められる」, 「選択授業が多くある」などがあり, その理由は, 「人として成長できる」, 「色々な考えを身に付けることができる」などであった。「単科大学」が強みであると回答した主な理由は, 「看護を学んできた先生方に教えて頂けるため」, 「医学

教育の延長ではなくて看護独自の視点で学べる」などであった。その他には「入学直後にオリエンテーション合宿がある」, 「県立の単科の看護大学設立が多くの他大学に比べて早い」という意見もあった。

7. 学生の考える本学の短所について

本学の短所と考える事項に関する自由記述による回答結果を図3に示す。回答者数は46名で回答数は60件であった。自由記述の内容は, 次のような7つのカテゴリー, すなわち「単科大学」, 「講義」, 「実習」, 「教員」, 「立地」, 「交流」, 「その他」に分類された。本学の短所として挙げられた項目の中で最も多かったものは「立地」18名, 次いで「実習」13名, 「単科大学」12名であった。「立地」に含まれる要素としては「田舎である」, 「他大学が近くにない」などがあり, その理由は「他大学との交流が難しく, 費用やお金がかかる」, 「車がないと移動しにくい」などであった。「実習」には「実習期間が短い」, 「実習場所が遠い」があり, その理由は「技術面に不安がある」, 「学生の負担が大きい」などであった。「単科大学」が短所であると回答した主な理由には, 「他分野の学生との交流や受講ができない」, 「総合大学に比べ, 看護に限らず幅広い知識(一般教養など)が学びにくい傾向があると思う」などがあった。その他には「活気が少ない」, 「バイトしすぎ」, 「卒業後即戦力にならない」という意見もあった。

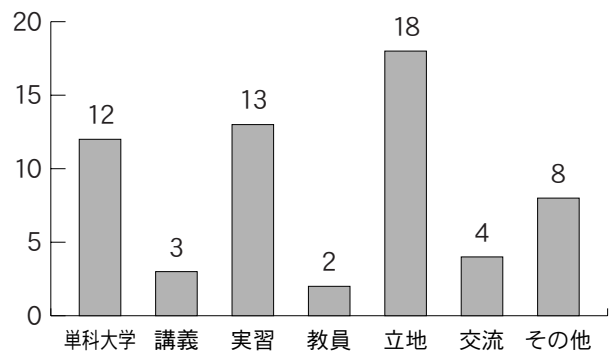


図3 本学の短所 (n = 46, 複数回答あり)

考察

1. 大学の訴求している特徴に対する学生の期待と満足
特徴には良くて目立つ面と, 悪くて際立つ面の両面

あるが、大学案内に記載されている特徴は、すべて長所として認識されるものばかりであった。大学案内の使命が、一人でも多くの受験生に好ましい関心を持ってもらうことが至上命題だとすれば、いいところしか書かないというのも一理ある。そして、それらの項目に対して「期待はずれ」の項目が皆無であったことは、大学案内Pathwayに記載されている本学の特徴は少なくとも学生の期待を裏切ってはならず、羊頭狗肉とならないような項目に絞って掲載しているという大学の堅実な姿勢は評価すべきものと言えよう。

次に満足度を見てみると、A・Bは学生の満足度が50%以上を示す項目であり、A・Bに含まれる項目については、今後も本学の特徴としてアピールし、さらなる満足も得られるような体制を維持していくことが大切である。Cに含まれる項目については、今後大学が大学案内の見直し、もしくは内容の見直しを行なうべき点であると考えられる。

Aに関しては、本学の学生が入学前にカリキュラム、施設および教員すなわち学習環境を期待していたことが分かる。また、就職難と言われる昨今では「求人が多くある」というのは学生にとっては魅力的なことであると考えられる。高校生を対象としたリクルート(株)の調査(カレッジマネジメント, 2003)によれば、学校選択の際に重視する条件として「施設・設備が充実している」、「就職に有利である」がいずれも9割を超えており、学ぶ環境を重視する傾向にあると報告されている。また同調査では「教育方針に魅力がある」ことを重視する高校生が約8割であった。このような一般の高校生の期待度が高い項目に関して、本学が実際に入学した学生から高い満足度を得ているのは素晴らしいことであり、今後も本校の特徴として重要視していくことが望ましいと考える。

Bの中で、特に満足度の高いものは「地域の人々から歓迎される」、「先生が親しみやすい」である。これらは学生が実際に大学生活の中で感じたことであり入学してみないと分からないことであるため、期待度は比較的低くなったと考えられる。生活のしやすさや人間関係は大学生活を送る上では重要であり、これらの項目については本学の特徴として今後一層アピールできる項目と考えられる。

Cに分類された項目の期待度がそれほど高くない理由は、本学の学生の大多数がそもそも看護を学ぶことを目的として大学選択を行っていることが原因と考えられる。たとえば英語教育の有無は、入学前には一般の科目の中の1教科として捉えられ、特別視されていない可能性がある。太田他(1999)の調査によれば「外国人教員がいる」ことや「英語教育に力を入れている」ことは、全学年を通して同じレベルで大学選択条件として捉えられていることが報告されており、本研究が対象とした4年生・編入生だけでなく、全学年に通ずる特徴と言えるかもしれない。一方、満足度が低い理由は、英語教育の意図が学生に伝わっていない、さらに言えば英語教育の捉え方が大学側と学生側とで異なっている可能性がある。つまり看護にとって外国語の理解がどう役に立つのかということが理解されないまま、授業の負担だけが印象に残ったということも考えられる。しかし、英語を学ぶ意義はただ単に実用的であるかどうかではない。英語を通して異文化を理解し、またそのプロセスを体験することは、看護において重要な患者理解につながっていくとも考えるが、多くの学生はそのような捉え方をしていないことが推測される。

また将来的な研究者や教育者の育成ということに関して期待度が低かったのは、大学案内に「看護学を発展させる」と書かれても受験生にはピンと来なかったことが原因と考えられる。しかしながら、同時に看護を学んできた学生の満足度が低いのは、本学の歴史がまだ浅く、それが本当に実現するのかどうかについて誰も確認していないことに起因していると思われる。あるいは、このアンケートを行ったのが臨地実習直後であったため、スタッフとして従事する感覚が強く、将来教育者や研究者になるという実感が持てない時期だったとも考えられる。進路指導に関しては、アンケート実施時期は進路についての個別相談時期と重なっていることから、形としては行っていたが、学生の個々のニーズを満たすほどではなかったことも一因と考えられる。

大学案内は、実態として概ね学生の満足のいく内容となっていることが確認された。しかし、学生から見て「ノーマーク」な項目も散見されており、今後大学

案内の更改等に見直す必要性を示唆するものである。

2. 本学特有の強みについて

結果で示した通り、本学特有の強みを項目のみに注目し単純集計したところ、「単科大学」を強みとして挙げ、その理由として「看護師資格を持つ教員が多い」と回答している者がいる一方で、他の回答者は「教員」を強みとして挙げているなどの例が多数あった。つまり強みの項目となっているものが、他の回答者にとっては理由として挙げられるものがあり、それぞれが入り組んでいたということである。あげられた項目と、それに対する理由については、捉え方や抽象度が各回答者でばらつきがあり、それらの回答を単純に集計して定量的に評価するのはあまり意味がないかもしれない。つまり、単に自由記述の内容をカテゴリー化し量的に分析するのではなく、同じレベルに揃えて論じることが必要であると考えに至った。そこで、本学ならではの強みと考えられる項目と理由の両視点から整理し、図4に示すような構造化を試みた。

図4に示すように本学ならではの強みと考えられる事項の上位にくるものは「単科大学」と「立地」であった。「単科大学」を構成するものの中に「教員」と「カリキュラム」が含まれ、「立地」には「小規模」と「学習環境」が含まれていた。さらに「教員」「カリキュラム」が強みと考えられる理由は「看護が専門的に学べる」、「看護独自の視点で学べる」であった。

この結果から、カリキュラムを遂行するためにはそれらを教えられる「教員」が必要で、単科大学であることにより教員やカリキュラムを充実させることができ、本学はその両方を兼ね備えていると学生が認識していることが判明した。単科大学であることから教員との関係も近く、さらに看護師資格を持つ教員が多いことでより一層「看護独自の視点を学べる」「看護が専門的に学べる」と捉えていると考えられる。また、本学の教員（教授、助教授、講師）1人あたりの学生数（定員数）は10人である。これを朝日新聞社が発行している大学ランキングの「教育環境ランキング（山岸，2001）」に当てはめると7位に相当し、教員の指導が学生個人に行き渡りやすいと捉えることもできる。

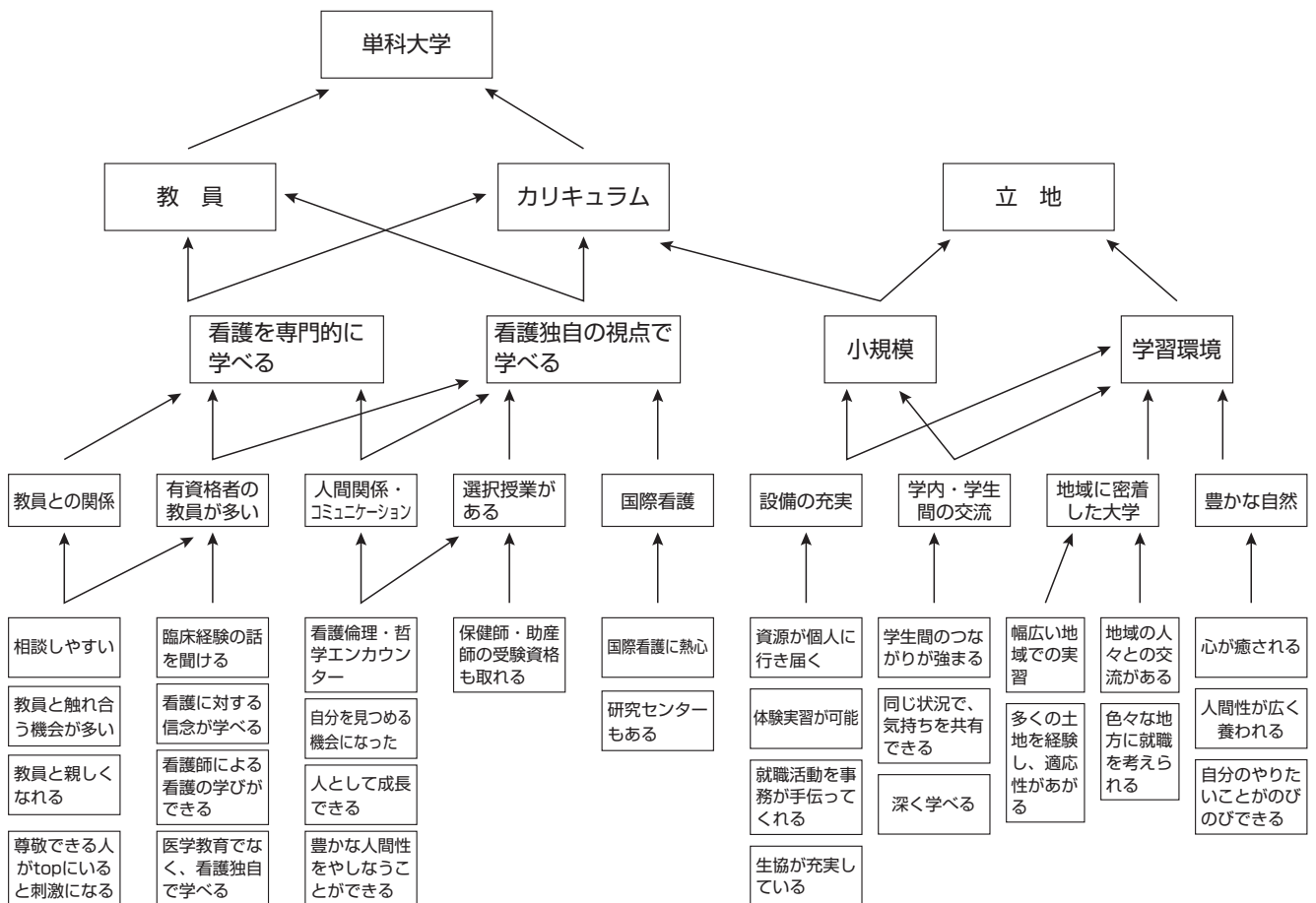


図4 本学ならではの強みの構造

カリキュラムに関しては「人間関係・コミュニケーション」、「選択授業がある」、「英語教育・国際看護」があった。その中でも「人間関係・コミュニケーション」は、自分を見つめることもでき、人としての成長も可能で、さらには患者理解につながるため看護では特に重要なことであり、それを学生自身が認識していることは本学ならではの強みであるといえる。また、単科大学であることは換言すれば小規模であるということであり、設備等の学習資源が個人に行き届きやすく、学内間の人間関係も深まるにつながる。そしてこれは「立地」条件にも相通ずるものがあるが、地域に密着し、豊かな自然環境のもとで学習できることは学生が認識する本学ならではの強みであるといえる。

3. 本学の短所について

2と同様に本学の短所と考えられる事項を項目とその理由の両視点から整理し、構造化したものが図5である。

本学の短所と考えられる事項の上位にくるものは「単科大学」と「立地」で、次に「実習」であった。「単科大学」・「立地」を構成するものには、「幅広い知識が学べない」、「交流関係が狭い」、「実習の偏り・期間の長さ」が含まれ、「実習」には「実習の偏り・期間の長さ」が含まれた。「幅広い知識が学べない」の要因としては、「看護専門科目以外学びにくい」、「他大学が近くにない」があった。「交流関係が狭い」の要因としては、「他大学が近くにない」、「交通の便が悪い」があった。「実習の偏り・期間の長さ」が考えられた理由は、「就職への不安」、「実習経験の少なさ」、「交通の便が悪い」であった。

以上のことから考えられることは、単科大学であることは、総合大学と違い看護以外の知識を学ぶ環境が整っておらず、交流関係も狭いこと、また近くに大学がなく本学で行えないことを他に求めることも立地上難しいと学生が認識していることである。仮に単科大学であっても、近くの大学との間に単位互換制度などが導入されており、他分野も学ぶことができる環境であれば、「幅広い知識が学べない」ことが短所とは認識されにくいと考えられ、また総合大学であっても、立地条件が悪ければ学生の不便さは変わらず「交流関

係が狭い」という短所は解消されないと考えられる。本学は単科大学と立地の両方の条件を持ち合わせているため、それらが学生の考える短所となったと考えられる。

「実習」に関しては、実習場所が遠方であり、一定でないことが学生の経済的・時間的・身体的な負担となっていると考えられる。また学生は技術面の力不足や実践力を養えないと感じており、卒業を控えた4年にとっては就職の不安につながるため、「実習の偏り・期間の長さ」が学生の考える短所であることが判明した。「実習経験の少なさ」という意見に代表されるように、実際の実習時間が短いかどうかはともかくとして、本学の学生が自らの体験に基づいて実習期間が短いと認識していることは、たしかに本学の短所と言えるかもしれない。

4. 本学の特徴について

上述したように、本学の強みにも短所にも共通して現れる上位概念として「単科大学」、「立地」という項目があった。本学は「単科大学」である以前に「看護大学」であり、これは本学特有の特徴であると考えられるが、アンケートの結果では本学の強み、短所と考えられる項目として「看護大学」という回答は皆無であった。また、「交流」においても「地域の人々との交流がある」、「学内での学生間のつながりが強まる」、「他大学の学生との交流がない」などはあったが、「患者さんとの関わり」という回答はなかった。患者さんとの関わりを持てることは看護系大学特有のものであるにも関わらずである。この理由として、前述したリクルート(株)の調査(カレッジマネジメント, 2003)が「希望する学部・学科の有無は前提条件」と報告しているように、「看護大学である」ことが、学生の意識の中で前提条件として存在し、他の学部・学科との比較はしていなかったことが推測される。

今回の調査より、「本学特有の特徴」を、実際に他大学との比較を行っていないと思われる学生たちが回答している、すなわち相対的な判断ではなく、絶対的な評価をしているというのはある意味不思議なことではある。絶対的評価は学生個人の認識に他ならず、単なる思い込みである可能性も考えられる。しかしなが

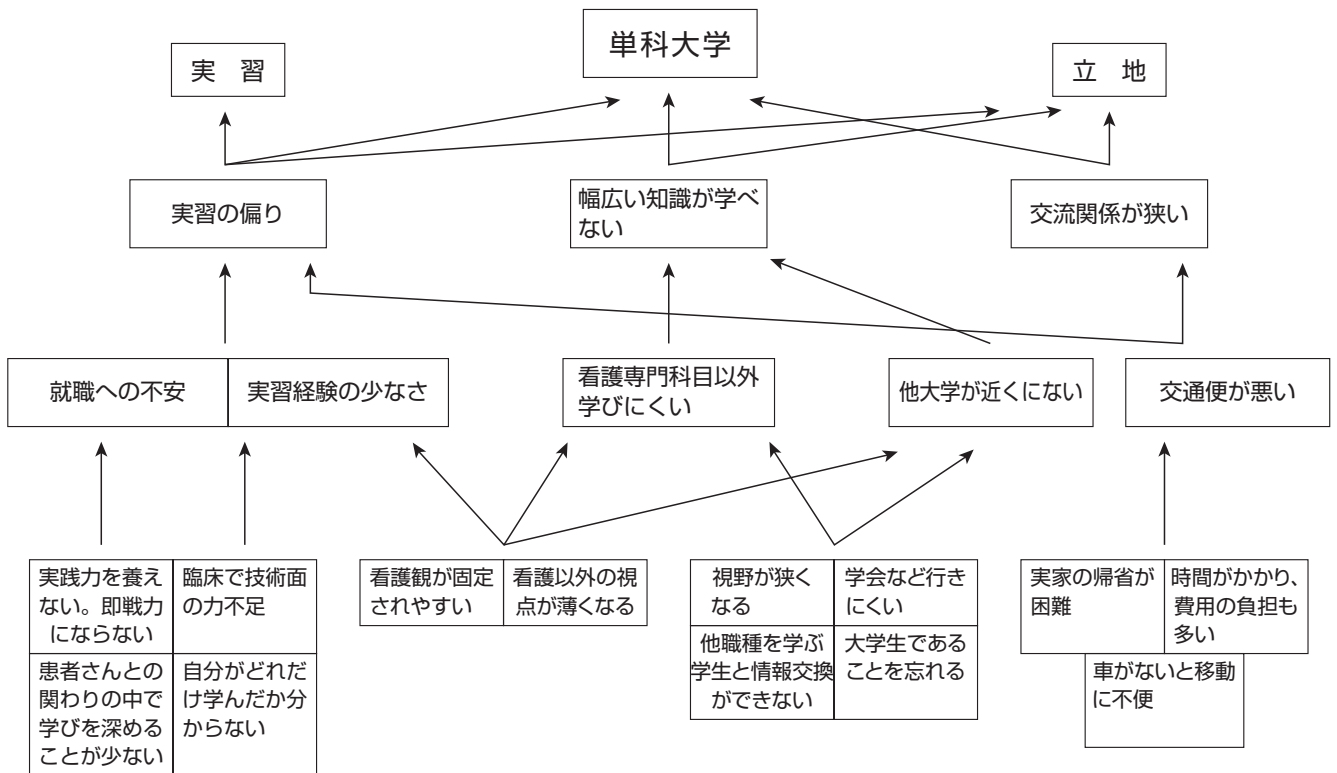


図5 本学の短所の構造

ら、本研究では多くの学生が同じような傾向の回答を示しており、いわば各人の勝手な評価の中に強い類似性があったことが見出された。

例えば、「単科大学」を強みと認知した学生は、何か満足感を得られた際、それを「単科大学だからだ」という理由をつけて納得していることが考えられる。逆に「単科大学」を短所と認知した学生は、何か不満感を覚えた際、それを「単科大学だからだ」という理由をつけて諦めていることも考えられる。つまり、「単科大学」であること自体が本学の特徴なのではなく、幾多の事象について「単科大学」であることを理由として結びつけた結果、単科大学であることを学生が「本学特有の特徴」として認識した可能性が高い。図4、図5にみられるように「単科大学」や「立地」を頂点として関連事象が裾野のように広がっている、すなわち「単科大学」に、それだけ多くの意味が込められているということがなによりの証左であろう。

意味という点でいえば、大学案内Pathwayでは、「優秀なスタッフ（出身大学・出身病院）」がいることが謳われており、これは学生の期待度も満足度も高かった。そして自由記述による回答でも本学ならではの特徴として「教員」が挙げられていた。しかしその

内容は、「看護資格を持つ教員が多い」「教員との関係」となっており、同じ「教員」という特徴をとっても大学側の謳っている内容とは異なっている。

では、大学が掲げる大学の特徴と、学生が考える大学の特徴のどちらが「大学の特徴」と言えるのだろうか。もちろん、学生がどう考えようと、大学案内の中で公表している特徴が大学の特徴である、という考え方は否定しない。しかし、一方で、大学は大学の発行する大学案内も含めてハードウェアに過ぎないという見方もできる。そのハードウェアをどう活かしていくか、どう認識していくかはそのユーザである学生が形成していくものであるという考え方も成り立つ。

その立場に鑑みれば、大学案内Pathwayに記載されているセールスポイントのみを取り上げて、「本学の特徴」であるとはいっては不十分であり、学生がそれを本学の特徴であると認識してこそのものであると考える。幸いにも本学の提示する特徴の中には羊頭狗肉なものもなかった。しかし、「立地」や「単科大学」など、学生が本学特有の特徴と認識している事柄については言及されていない。大学の掲げる特徴が単なるお題目にならないためには、適宜、本研究で行ったような点検が必要であると考えられる。カキ鍋用の鍋と言っ

て売られていたからではなく、カキ鍋の具材を入れたからカキ鍋になるのである。

5. 本研究の限界

本研究は、入学前の期待と学生生活全体を振り返って満足度を尋ねるとい調査上の制約から、学部の最終学年の学生を対象を絞らざるを得なかった。回答方法の工夫もしたが、ある程度記憶上の問題があったかもしれないことは付記しておく。

結 論

本研究結果により、以下のことが明らかになった。大学案内Pathwayに記載されている大学が考える本学の特徴は、「新しい大学」、「人々へ配慮が自然にできる豊かな人間性を養う」、「人々の健康福祉の向上に貢献できる人材となる」、「地域の人々から歓迎される」、「授業がわかり易い」など44項目であった。

大学案内Pathwayに記載されている大学が考える本学の特徴に対する、学生が入学前に抱いていた期待と調査時点の満足度は、期待はずれの項目は皆無であった。大学案内Pathwayに記載されているものは、本学の特徴については少なくとも学生の期待を裏切らない範囲で記述されていた。

学生が考える本学特有の強みは「単科大学」「立地」であり、これは大学案内ではアピールされていなかった。ただし、これらの要素は同時に短所としても認識されていた。

文 献

- 井部俊子 (2002): 看護系大学新卒者の臨床実践能力, 病院, 61: 288-295
- 看護行政研究会 (2003): 平成15年看護六法. 新日本法規(株), 426. 名古屋.
- 看護問題研究会 (2004): 看護関係統計資料集. 日本看護協会出版会, 東京.
- 厚生省健康政策局看護課 (1993): 知っておきたい看護婦確保対策の基礎知識'93. 11-15, 東京.
- 新田章子, 池上直己 (2002): 新卒看護師の学校教育

の評価と将来 学卒者と学卒者以外の比較を中心に, 病院, 61: 284-287

- 太田勝正, 石川利江, 野坂俊弥他 (1999): 看護大学選択の際の学生の判断と迷いについて—長野県看護大学在学学生へのアンケート調査より—. 長野県看護大学紀要, 1:65-77
- リクルート (2003): 学校選択重視条件と興味を持った理由. カレッジマネジメント, 123:25-27
- 酒井郁子, 湯浅美千代, 佐藤まゆみ, 大室律子, 佐藤禮子 (2003): 看護系大卒者の特徴と育成・活用に関する看護師長の認識, 看護管理, 13(7): 515-522
- 佐々木幾美, 出羽澤由美子, 濱田悦子 (1998): 看護系大学卒業生の特性, Quality Nursing, 4: 827-831
- 山岸俊介 (2001): 教育環境ランキング. 清水健宇編, 大学ランキング. 251-253, 朝日新聞社, 東京.

【Summary】

Does Characteristics Written in University Brochure Agree With What Students Perceive?

From the Survey on Expectations Before Enrollment and Satisfaction After Enrollment of the Students of Nagano College of Nursing, Japan

Jukai MAEDA*1, Yuka KAKINUMA*2

*1 Nagano College of Nursing

*2 Toranomom Hospital

There are two types of characteristics of a university. One is what the university provides in the brochure. The other is what is recognized by students in the university.

This study was conducted to clarify both characteristics through the brochure of Nagano College of Nursing (NCN) and the questionnaire survey for the students in NCN. Forty four items such as "Capacity building" and "Support for the employment" were identified in the brochure. As a result of the survey, there were no items about which students experienced a letdown after enrollment. However, students believed that the exclusive characteristics of NCN were "geographical location", "single-department college", which differed from the characteristics provided by NCN. Through this study, the students are supposed to be the main body to create characteristics of a university/college, and it will be necessary for universities/colleges to make sure if the characteristics written in the brochure fit with what students do perceive.

Keywords: Nursing College/University, Characteristics, University Brochure, Nursing Students

前田樹海 (まえだ じゅかい)
〒399-4117 駒ヶ根市赤穂1694 長野県看護大学
Tel. & Fax: 0265-81-5158
Jukai MAEDA
Nagano College of Nursing
1694 Akaho, Komagane, 399-4117 Japan
e-mail: jukai@nagano-nurs.ac.jp